

# 令和4年度北上市議会広聴委員会 行政視察報告書

## 1 期 間

令和5年1月10日（火）から11日（水）

## 2 視察先及び視察内容

### (1) 岐阜県可児市

地域課題懇談会・ママさん議会・模擬選挙・高校生議会について

### (2) 長野県飯綱町

議会政策サポーター制度について

## 3 参加者

委員長 平野明紀

副委員長 居駒勉

委員 高橋久美子

菊池勝

小原享子

(欠席委員 太田洋市)

随 行 高橋明日香（議会事務局主任）

## 可児市の概要

面積：87.57平方キロメートル

人口：100,700人（令和4年12月1日現在）

- ・岐阜県の中南部に位置し、県庁所在地の岐阜市及び中部圏の中核都市である名古屋市からとともに30kmという立地条件から、昭和40～50年代の人口急増・高度成長時代に、丘陵地の住宅団地開発によって急速に人口が増加した。
- ・昭和57年4月に市制施行、平成17年5月には飛び地である兼山町と合併し人口も10万人を超え、加茂地域の拠点都市として発展を続け、令和4年4月に市制施行40周年を迎えた。

## 説明者（出席者）

可児市議会 議長 板津博之様  
議員 川上文浩様  
可児市議会事務局 桜井孝治様

## 視察内容

### 1 地域課題懇談会、高校生議会

#### ○ 概要

- ・岐阜県立可児高校が取り組んでいる地域課題解決型キャリア教育を支援する取組の一つ。若い世代（高校生）が地域の大人と関わり、地元の魅力を知ることによって、地域への愛着や当事者意識を醸成したり、広い視野や新しい経験を獲得したりすることなどを目的として、地域で活動する団体と若い世代が関わる機会を設けている。
- ・団体関係者と高校生、議員が意見交換を行うことで市民の意見を聴取できるほか、若い世代に議会の存在を身近に感じてもらうことができる。

○ 実施概要

地域課題懇談会

時期	内 容	参加者
H26.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元医師会の協力のもと、可児市議会が主催</li> <li>・ 医師会長の講演、健康づくりをテーマにグループワークを実施</li> </ul>	職員11名 議員19名 医師9名 高校生23名
H27.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どんな街に住みたいか・自分でできることをテーマにグループワークを実施</li> <li>・ 可児高校以外にも2高校に参加生徒を拡大した</li> </ul>	議員17名 金融協会13名 高校生66名
H28.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元商工会議所と共催</li> <li>・ 可児の担い手づくりをテーマにグループワークを実施</li> <li>・ 高校生が地元企業を知る機会につながった。現在は市が主催の「可児の企業魅力発見フェア」として事業展開がなされている</li> </ul>	議員20名 商工会議所21名 高校生58名

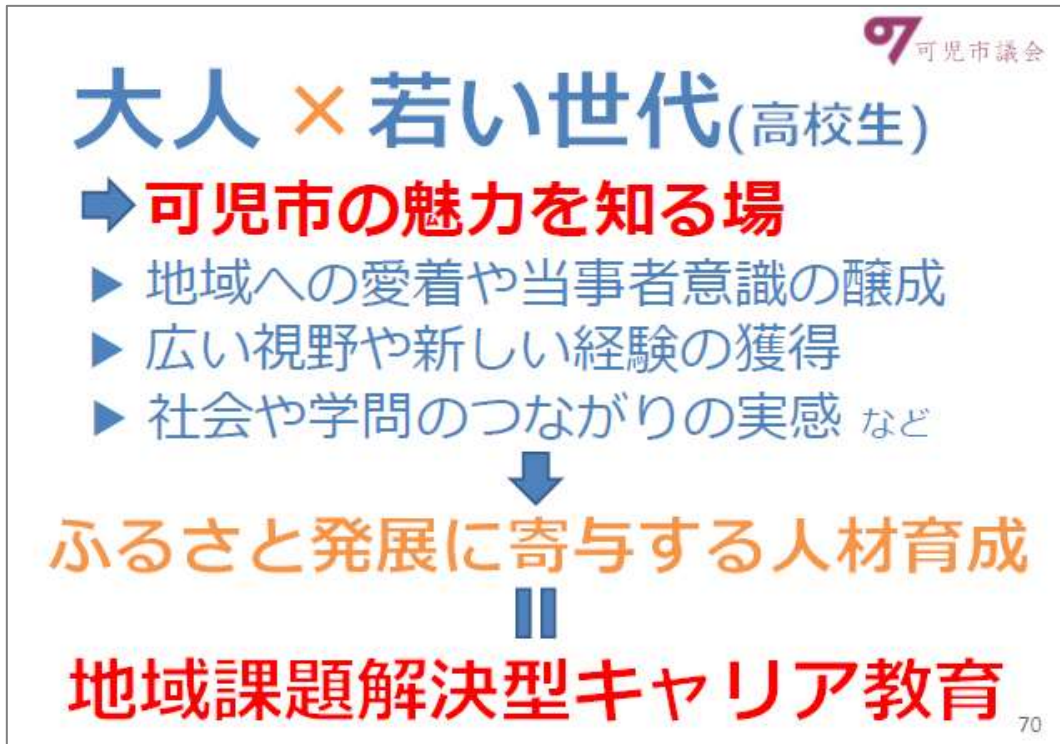
高校生議会（最近の主なもの）

日付	内 容	参加者
R2.2.5 第7回	第1部 R1.10月の模擬選挙立候補者の選挙公約だったテーマについて、生徒と議員が意見交換 第2部 協議結果報告、質疑応答	市長、議員22名 高校生25名 職員
R4.3.25 第8回	※ コロナ禍のため、成果発表会という形式で活動報告やマニフェスト提案を実施 第1部 可児高校生コアメンバーが調査研究を進めているプロジェクトについて活動報告 第2部 校内で実施した模擬選挙の立候補者の選挙公約をもとに、市への提案を行った	市長、議員17名 高校生16名 職員

○ 説明者コメント

- ・ 平成26年度の地域課題懇談会では、将来医療系に進みたいと考えている学生が参加。参加した学生は医師に進路に関する相談をし、直接アドバイスを受けることもできた。
- ・ 地域の団体との意見交換は高校生の取り組むきっかけにもなる。高校生（若い世代）が地元のことを知らない一方、知りたいという気持ちもあるのは確か。貴重な人材の流出を防ぐためにも、団体との意見交換を機に地元のことを知ってもらい、また、若い世代の意見を聴取する機会を設けることは重要と考える。
- ・ 高校生議会は、立ち上げの際ほとんどの先生から反対された。自分ともう1人の先生

を進めていったが、いざやってみると反応もよく、生徒の成績向上にもつながった。



## 2 ママさん議会

### ○ 概要

#### ママさん議会ワークショップ（平成28年7月24日）

- ・ ママさん議会の事前企画会議として、議論するテーマを協議した。可児市の子育て環境や、当時駅前に建設予定の子育て拠点施設（現：子育て健康プラザmano）に関する意見交換を実施した
- ・ 子育て世代の女性10名、高校生3名が参加

#### ママさん議会（平成28年8月23日）

- ・ 子育て拠点施設の運営に関する意見交換を行い、結果を報告。子育て世代の女性の声を聞く機会を設けることについての意見書を全会一致で採択した。
  - ・ 市長、職員2名、議員18名、子育て世代の女性27名が参加
- ↓ その後
- ・ 執行部へ、ママさん議会が出た意見や提言を集約して伝達。拠点施設について、ATMを設置することや、施設内で飲酒等ができるようにという要望が実現した

### 子育て世代との意見交換会（平成31年1月25日）

- ・子育てに関する施策への参考として、子育て健康プラザmanoがオープン後も運営に関する意見交換会を実施。
- ・施設を利用してみての良い点・改善点などについて、ワークショップを実施した。
- ・子育て世代の女性25名が参加

## 3 中学生議会

### ○ 概要

- ・可児青年会議所が企画・主催し、令和4年8月20日（土）に実施。
- ・主権者教育の一環として、西可児中学校3年生が2つの班に分かれ、地域課題や政策について検討。SNSや空き家問題に注目したユニークな案が提案された。

## 4 模擬選挙

### ○ 概要

- ・可児高校生徒の希望により企画がスタート。マニフェスト作成や選挙ポスター、投票用紙など市の選挙管理委員会にも協力してもらい、本番さながらの模擬投票を実施した。
- ・平成28年3月に可児高校の1・2年生を対象に、学校の体育館で実施。候補者の演説会、グループディスカッション（生徒による候補者のマニフェスト検証）、模擬投票などを行った。候補者3名はNPOなどに協力いただいた。
- ・投票日当日に部活動で投票できない生徒がいたことから、期日前投票も実施した。
- ・模擬選挙実施後の平成28年の参院選では、可児市の18歳～19歳の投票率が53.30%となったほか、平成28年7月17日の朝日新聞において、岐阜県の高校3年生約180人に対する投票意欲等に関するアンケート結果が掲載され、模擬選挙を経験した可児高生の約90%が投票に行ったとの結果が出た。

## なぜ若者の投票率が低いのか



EX. 生徒会選挙では、  
全員が半ば強引に投票

EX. 自分から投票所に行  
って投票

高校生の段階では、受動的にしか選挙に  
ついて学んでいない  
⇒「人を選ぶ」という経験がない

### 生徒の疑問1 どうやって投票するの？



選挙公報

### 本番さながらの選挙



投票用紙等



選挙ポスター



期日前投票

視察資料より

## 主な質疑

Q. ママさん議会はずっと同じ方々に参加していただいたのか。

A. ママさん議会は、ママさん方のネットワークを使って参加者を集めた。議会報告会やSNSで周知はしていたが、公募ではなかなか手を上げる方はいなかった。

Q. 意見交換のテーマはどのようにして決めているか。

A. 高校生に関しては、最初は議会側からテーマを持ち込んでいた。今は学校のほうで授業として取り組んでいるのでテーマ決定も学校側（生徒たち）で行っている。

Q. 政策につながるような有効な意見を吸い上げる方法について。

A. まだまだ手探りではあるが、「（市民が）困っていることはなんだろう」という視点で、事前に常任委員会でよく調査研究したうえでテーマを絞り込み、そのテーマに関係する団体ほか市民などに参加してもらい、解決策について対話する。そこで深めたい内容が出てきたら、所管する常任委員会でさらに調査を進めていくことで深い議論につながっていくと思う。



川上議員より説明をいただく（上段）  
議場にて（下段）

## 所 感

### ○平野 明紀委員長

今回の可児市議会への視察は、議会改革推進会議として取り組んでいる政策サイクルの確立の中でも肝となる「市民意見の政策への反映」を効果的に進めるために、どのような実施手法が良いのか。市民の議会への参加を進めることによって関心を高め、議員のなり手確保につながる取り組みの効果はどうか。など、注目ポイントの多い視察でしたが、まず、圧倒されたのは、説明いただいた川上議員のバイタリティーというか、議会改革への情熱と自信でした。

可児市議会は、市民アンケートで90%の市民が「こんな議会いない」との回答だったことをきっかけに、さまざまな改革に取り組まれ、政策サイクル、議会運営サイクル、ICTの活用、委員会代表質問、主権者教育と位置づけるママさん議会・高校生議会など多くの事例を実践し、全国地方議会の先駆けとして注目されていますが、その原動力は、川上議員の力が大きいのだろうと感じました。

今回の視察のテーマは、「地域政策懇談会・ママさん議会・模擬選挙・高校生議会について」でしたが、強調されていたのは、主権者教育の視点でした。地域への愛着、若者の意見反映、キャリア教育などの視点から、高校生議会、さらに、地域課題懇談会、模擬選挙などを実践し、可児高校の実際の選挙での投票率が90%を上回ったこと、他の改革メニューの成果も含めて、市民アンケート調査で、議会は市民の意見を反映しているとの評価が高まっていることは、成果だと感じました。

私をもっとも関心を持っていたのは、政策サイクルの取り組みで、市民と意見交換を行う議会報告会をどのような手法で行われているのか、という点でした。最初、全体で150人を超える市民との対面方式で行っていたものを、幾度かの見直しを重ね、現在は、常任委員会ごとに設定したテーマについて、グループごとに意見交換を行っているとのことで、「手探りの状態だが、ある程度手応えを感じている」とのお話でした。どのような手法によって意見交換を行うとしても、ファシリテーターの養成が課題ですが、参考にしたいと思いました。

また、「主権者教育」と位置づける高校生議会などの多様な広聴活動について、一過性のものではなく、継続的に取り組むことが、市民の議会への関心を高め、投票率向上につながったことが成果としてあらわれており、将来的には議員のなり手確保にもつながることが期待されることから、導入について検討していきたいと感じました。

この他に、講師の川上議員から強調されていたのが、議選監査の役割です。川上議員ご自身、現在、監査委員をされているとのことですが、議会のチェック機能を高めるために、監査委員の権限を最大限に活用し、議会との情報共有、連携を進めるべきとお話をお聞きし、それが議選監査を選任する意義なのだろうと感じ、この点についても、今後、検討していく必要があると思います。

### ○居駒 勉副委員長

日本で議会改革のトップを走っている議会を視察でき大変良かったと思う。事前に



資料等で勉強し説明を受けたが実際実践している議員に話を聞くことができ理解が深まった。

地域課題懇談会では、テーマをしっかりと定めそのエキスパートから話が聞けるこの点は非常に参考となった。

監査委員を活用すべきとのアドバイスあり、今まで気づいていなかったが指摘された通りで監査委員の役割を再度検証し監査情報を活用すべきであると感じた。

我々が想定していた、地域単位となるとやはり自治会の方にお願ひし課題、問題点を抽出している点は、割り切りも大事と感じた。

ママさん議会は、メンバー選出に関心を持っていたがママさんたちのネットワークを利用し参加者を集めている点も参考となった。

高校生議会は、ある一校に絞り開催している。うまく機能した点として、非常に関心がある一人の高校生がいたこともポイントである。

可児市議会は、様々な施策を打って市民からの声を拾って政策のサイクルを回しており学ぶ点は大きかった、その中でも議員の中にカリスマ性を持つ人がいて強力に進めているところも特徴であると感じた。

#### ○高橋 久美子委員

- ・議会の力がまとまれば本当に大きな力を発揮できることがわかった。それ以前に自分自身、議員として走りながら磨いていきたい。
- ・そもそも主権者教育をなんとかしないといけないんじゃないかと思った。

- ・高校生も市民の1人、市民の多様な意見を的確に把握し、市政に反映させることが重要。地域課題懇談会の充実のためには、特に高校生、子育て世代との意見交換会は必要であり、貴重な時間にどういう内容で懇談するかは相当練っていく必要があると感じた。
- ・例えば若い世代が県外都市部流出するような状況であっても、自分たちの願いが市政に反映された経験を知る若い人は戻ってくる確率が高いと勝手に感じた。
- ・議会報告会、意見交換会から委員会の代表質問へつなげていく仕組みは、住民の福祉向上の実現には最速かもしれないと感じた。
- ・より効果の高い事業とするよう評価の仕方を考えないといけないのではと思った。特に、議選監査の役割が重要と何度も聴くが1人だけで良いものなのか。
- ・広聴広報委員会の機能強化は必須。政策形成サイクルの入口にあたる広聴機能の充実に努めていきたい。

#### ○菊池 勝委員

市長、執行部の政策・施策（案）は、必ずしも市民の声と一致していない。市民の声を反映させた、議会の提言・修正により議案を成立させる。だからこそ市民への説明責任を果たせる。広聴委員会として、地域課題懇談会・ママさん議会・模擬選挙・高校生議会の開催手法や実施内容等を調査事項としておりましたが、そこだけを切り取った説明ではなく、むしろその土台となる、議会運営サイクルや民意を反映する政策タイムライン、また、意見聴取・反映サ

イクルが一連の流れとなり市民の意見が反映される議会運営について。また、予算・決算審査による提言等への取組は大変参考となりました。全体を通して議会改革による広聴機能の在り方を学ぶ視察になりました。特にも、若い世代との交流サイクル。年間を通して「地域課題懇談会」「ママさん議会」「模擬選挙（主権者教育）」「高校生議会」の取組から「議会・学校・行政・地域との協働」を掲げており、若い世代への取組として「ふるさと発展に寄与する人材教育」「地域課題解決型キャリア教育」に落とし込んだ考え方やその方向性は、共感できるものであり、是非、目指すべきだと思います。

## ○小原 享子委員

### 1. 議会報告会

2部形式、1部全体会で予算報告、2部意見交換会は常任委員会毎テーマに合わせての意見交換が行われていた。令和4年5月には完全オンラインで行われた。

2部形式は、本市議会の「市民と議会をつなぐ会」と同じ形式と思った。常任委員会毎のテーマでの報告会は委員会の課題に対する意見を聴くこともできる機会ともなることから、常任委員会を中心にしたグループ編成にし、議会報告と意見交換を行うことも検討しても良いのではないかと考える。

### 2. 高校生議会

高校生も市民の1人との考えで、高校生の意見を把握し、市政に反映、大人と関わる場所を提供することで、地域への愛着や当事者意識をもってもらい、「ふるさと発

展に寄与する人材育成」そして地域課題解決型キャリア教育として取り組まれていた。

高校生とのグループディスカッションや、高校生の調査・研究を経ての活動報告の場を議会が提供。高校生議会に於いて、意見書として採択するというものであったが、その意見書も「公衆フリーWi-Fiの環境整備に関する意見書」など若い人の視点が盛り込まれ面白いと思った。

当市に於いては、黒沢尻北高校で「きたかみ世界塾」が行われているが、本市議会も協力し、議場を発表の場とすることはできないか。又は、他の高校に働きかけ実施できるか。若者の声が政策に生きていく方法として検討の余地はあるものではないかと思う。

他、子ども議会、中学生議会で地域課題や政策を考え発表する機会を作っていたが、議場を発表の場とし自分たちの考えを伝える機会の創出も面白い取り組みと思った。ただ、課題を出すのみではなく、どのようにすれば解決できるか考え発表の場をつくるも主権者教育を含め、議会活性化にもつながるのではないかと考える。

### 3. 地域課題懇談会

多職種間連携教育として、地域課題に取り組む専門家に、議員や高校生などの若い世代が地域の課題を一緒に話し合い、認識を深め合うため意見交換を実施している。テーマに基づき、地元医師会や商工会議所等と共催で開催していた。

議会が懇談会のきっかけづくりをし、地域課題の専門家と高校生など若い世代と議員が意見交換を行う。

当市にあっても、中心商店街活性化について、市民の健康づくり、子育て支援など、

地域課題について、専門家を含め懇談できれば解決に向けて市民を巻き込んだ検討ができるのではないかと。青年会議所の皆さんとの共催での懇談会も面白いかもしれない。

#### 4. ママさん議会

子育て世代の女性と可児市の子育て環境や市建設予定の拠点施設に関する意見交換を行い、議場で発表を行い意見書を採択したというものであった。

子育て環境の整備は、今も今後も重要な政策のカギになる。子育て中のママや女性の政策に関する意見を聴く場も必要と思った。

当市に於いては、女性議会を行っていた時期があったが、手法を見直し女性の声を政策に生かしていくことも必要と思う。

今回、可児市に於いては、高校生を含め、市民が政策を発表する場に議会を活用していた。市の問題点について、ワークショップの機会を作り、解決策（政策）を発表する場として議場を活用する。そして、意見書として提案まで行う機会をつくることは、市民にも問題を出すのみではない一緒に市全体考える機会づくりという点で有意義と思った。

## 飯綱町の概要

面積：75平方キロメートル

人口：10,549人（令和4年11月30日現在）

- ・長野県の北部に位置し、西・南は長野市、北は信濃町、東は中野市に隣接する、飯綱山から斑尾山までの穏やかな丘陵地。町の地形はすり鉢状をなし、底辺部となる町の中心には鳥居川が流れている。平成17年10月1日の牟礼村と三水村の合併により町制を施行。
- ・豊かな自然と清らかな水を活かした、りんご・水稻をはじめとする農業が基幹産業である。

## 説明者（出席者）

飯綱町議会	議長	渡邊	千賀雄様	
	副議長	原田	幸長様	
	議会運営委員会委員長	清水	満様	
	総務産業常任委員会副委員長	中島	和子様	
	議会報編集調査特別委員会委員長	石川	信雄様	
	同	副委員長	中井	寿一様

## 視察内容

### 1 導入の経緯

当初の目的としては主に以下2つ

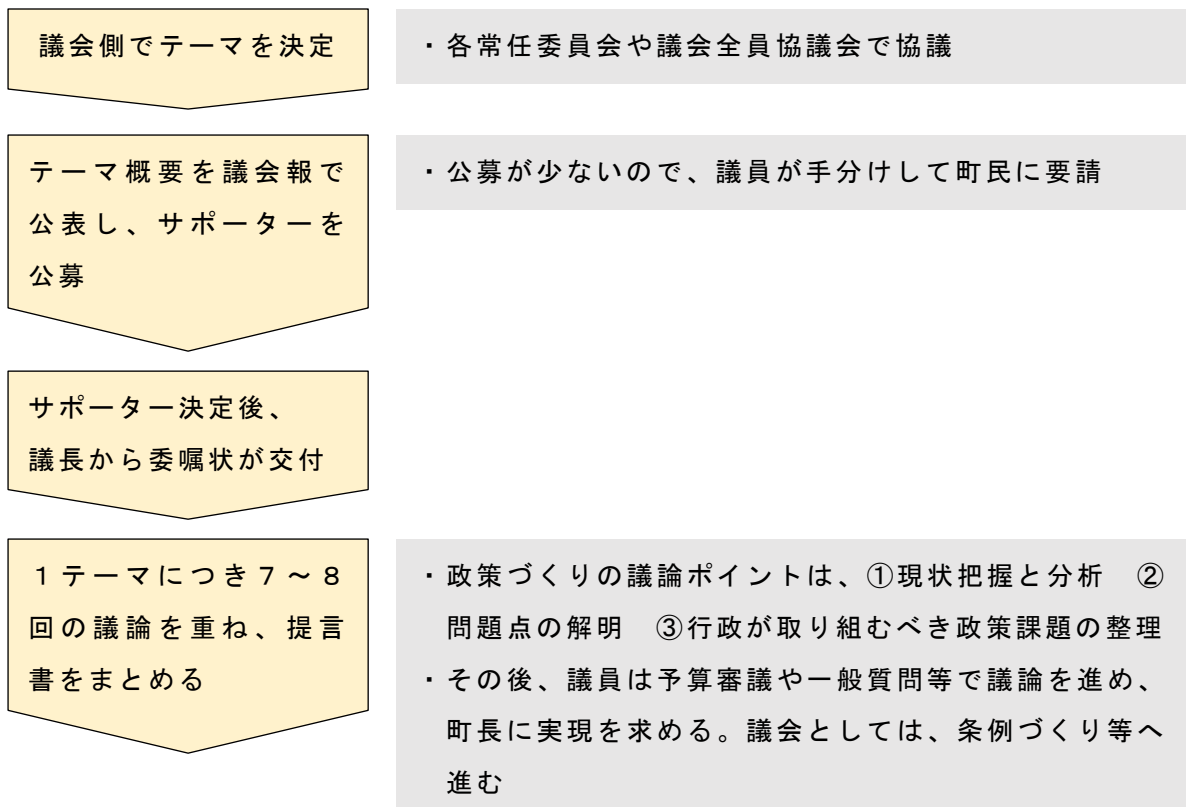
- ① 開かれた議会とするためにも、議会活動への町民参加を広げる
  - ② 議員定数が減る中で、町民の知恵も借りて政策づくりを協働で行う
- ※ 飯綱町の議員定数は合併時36人だったが、その後18人→現在の15人となった

## 2 これまでのテーマ

・これまで8つのテーマについて町へ提言を実施している。

回次	提言テーマ	サポーター内訳
第1次 H22.4～	① 行財政改革推進のための政策提言 ② 都市との交流・人口増加をめざす政策提言	公募2人 要請10人
第2次 H25.6～	① 新たな人口増対策 ② 集落機能の強化と行政との協働 ※その後、議員提案により「集落振興支援基本条例」を制定	公募3人 要請12人
第3次 H27.6～	① 飯綱町における高齢者の新しい暮らし方（健康戦略）の提起 ② 都市・農村の共生へ新しい産業を生み出し、若者定住の促進を	公募なし 要請16人
第4次 H30.11～	① 日本一住みたいまちづくりー20年後のために今なすべきこと ② 魅力ある農業再生を目指して	公募なし 要請15人
第5次 R2.11～	① 子どもたちの未来は飯綱町の未来 ② 飯綱町の輝く人口増対策について	公募1人 要請12人

## 3 テーマ決定～提言書作成まで



## 4 政策サポーターについて

### ○年齢構成や職業

- ・サポーターは、第1次～第5次まで延べ71人となっている。
- ・年齢構成は、60代が最も多く39.4%（28人）。次いで40代が32.4%（23人）。また、50代が14.1%（10人）、30代が9.9%（7人）、20代が4.2%（3人）。
- ・男女別では、男性が60.6%（43人）、女性が39.4%（28人）となっている。
- ・職業は、農業、NPO、司法書士、町の臨時職員、会社役員などさまざまである。また、専門的知識が必要な場合もあるので、町外の人でも可としている。

### ○要請先とテーマとの関連

- ・テーマに合わせてサポーターを選ぶ場合もある。（ex. テーマが「健康」なら高齢者）
- ・要請する場合は、事前に各常任委員会でサポーター候補者をピックアップし、議会全員協議会で協議のうえ決定している。

### ○費用弁償の支給

- ・現在は1回4,000円（第3次までは3,000円）

## 5 会議の運営

- ・基本的に4月～10月頃まで、2か月に約3回のペースで会議を実施している。日中は働いている人もいることから、午後7時～9時に開催している。
- ・サポーター7～8人：議員7～8人を2グループつくっており、サポーターには課題に対する意見を出していただいている。
- ・座長は常任委員長で、出された意見は委員会を中心にまとめている。前回の会議の意見を反映したものを、次のサポーター会議で提示し、さらにサポーターから意見をもろう、という形で繰り返し提言書をまとめる。
- ・まとめる作業は議員が行っており、議会事務局は必要な資料があれば準備等対応する。執行部が来て現状を説明することもあったが、回数としては多くないとのこと。

## 6 成果や効果、課題など

- ・当初はなり手不足解消のためにつくった制度ではなかったが、結果として、その一助にはなっている。

- ・提言提出後、その検討結果について当局から必ず書面で回答をもらっている。（「検討します」で終わらせない）また、提言した結果、時間外保育料の一部無料化、地域振興係の創設、集落振興事業の強化・予算額増などが図られた。
- ・苦労していることとしては、出された意見をまとめることが挙げられた。

## 主な質疑

Q. 月4,000円という金額は何を基に決めたか。

A. 町で定めている各種審議会等の金額を参考にした。

Q. テーマを決めるにあたってアイデア出しはどのようにやっているか。

A. 各常任委員会で議論しながらアイデア出しをしている。また、サポーター会議終了後に反省会を行い、そこで出た意見を次に活かしたりしている。

Q. 意見の引き出し方やまとめ方の工夫は。

A. 意見はたくさん出るが、提言レベルに値するかどうかという点でまとめるのに苦労した。

Q. サポーターの役割はサポーター会議に参加して意見を述べるだけか。例えば議案審査の際に参考人としてサポーターを活用したりすることはあるか。

A. サポーターからは意見をいただくのみであり、出された意見は委員会でまとめている。サポーターには考え方や分からない知恵を借りる、という程度の感覚で過度に役割を押し付けないようにしている。また、提言から漏れた意見などは一般質問に活かすなどしている。



飯綱町議会議員のみなさんと（右）

## 所 感

### ○平野 明紀委員長

今回の飯綱町議会への視察は、現在、北上市議会でも取り組んでいる議会モニター制度の進化というか、さらなる展開の方向性。議案審査における市民意見の聴取や参考人・公聴会制度の参考にしたいと考えての視察でした。

飯綱町議会は、すでに退かれた元議長の寺島渉氏が議会改革に熱い思いを持って先進的に改革に取り組まれており、政策サポーター制度だけではなく、全国から多くの視察が訪れている実績もあり、飯綱町議会の議会改革全般にわたってご説明いただきました。

飯綱町議会は、H24年9月に議会基本条例を制定され、その中の条文で「政策サポーター制度」が位置づけられています。特徴的条文としては、他にも「町民参加の推進」「災害対応」「議会白書、議会の自己評価」などがあり、これらは、H20年度から議会改革の実行を宣言し、その後4年の実践の成果を踏まえて制定されたとのことで、まさに、議会基本条例に基づく議会改革のお手本ではないかと感じました。

政策サポーター制度は、議会の政策立案能力を高めること、議会活動への住民の参加が大きな目的で、H22年度にスタートし、前議員と政策サポーターと一緒に議論を重ね、以降第5次まで10のテーマで政策提言が行われています。そのテーマは、人口増対策を大きな課題の柱として、集落機能の強化、高齢者施策、若者の定住促進、子育て支援など、参加した住民のアイデア、意見を取り入れ、チーム議会の総意によって

提言書が提出されているとのことでした。

政策サポーターのほかに、H27年度の基本条例改正で、議会広報モニター制度を導入し、議員のいない集落から優先的に選出することにより、紙面内容や議会運営だけでなく、政策的意見や要望も寄せられ、議会への関心を高めているということでした。

政策サポーター制度、議会だよりモニター制度は、住民が議会活動に参加する絶好の機会となっており、議員のなり手確保の面でも成果が上がっており、現状、定数16人中5人がサポーター・モニター経験者ということです。今回の視察には、政策サポーター経験者2人の議員にも対応いただきましたが、テーマによっては、サポーターとして発言するのに難しさがあるとも言われていましたが、住民が議会活動を理解する意味では、とても効果的だと感じました。

広聴活動で、あわせて検討・研究が必要な公聴会・参考人制度への応用も考えられるのではないかと考えていましたが、飯綱町議会では、議会基本条例に公聴会・参考人制度の条文はなく、政策サポーターの活動は、説明を受けた政策提言のためのサポーター会議への出席が役割で、他の役割は求めているということでした。

北上市議会でも現在取り組んでいる議会モニター制度は、議会運営について意見をいただくことを基本としており、政策に立ち入る内容の意見は、昨年度まで遠慮いただいていたのですが、参加するモニターのみなさんからは、政策についても意見を言う場がほしいとの意見もあり、モニター制度の今後のあり方について検討が必要な段階にあると思いますが、飯綱町議会の政策サポーター制度は大きなヒントになると思いま



す。

### ○居駒 勉副委員長

飯綱町議会も議会改革では先進地であり、合併時からの議員削減が進みチーム議会として政策力を向上させ当局と共に住民福祉の向上に活動してきている。

サポーターも議員が声をかえてメンバーを集め市民の声を政策に反映できる体制を築いている。特筆すべきは、サポーターの中から議員が生まれていることで議員のなり手不足に対する対応としても効果が出ている。

また、サポーターから出た意見は常任委員会で議論しその結果をサポーターに確認しそのプロセスを何度か回し政策提言をしているやり方は丁寧に行われていて、やり取りをする点がポイントである。

また町長が提案を積極的に受けて行政施策に生かすという姿勢があり、当市でも政策サイクルを回すうえで重要な事と思う。

飯綱町議会でもやはりいろいろな施策を推進する原動力となる議員の存在があった。

議員のなり手不足に関して、調査事項ではなかったが町議会の報酬では若いなり手は出てくるのは難しいと感じた。

今回、日本の中で議会改革のトップランナーともいえる議会を勉強したが、当市の議会も何もできていないわけではなく、ある程度の形はできていると確認できた、あとは今やっている内容を見直しサイクルとして回するためには何が不足している点を確認し、まずはやってみることに感じた。

### ○高橋 久美子委員

- ・議会改革を推進し新しい地方議会創りを目指し、議会の権限、役割、責任を果たす努力をしている。
- ・チーム議会として政策力の向上のため、  
①議会への住民参加を広げる ②住民自治意識向上 ③見える化 ④議会改革 ⑤議員の意識改革 ⑥持続的改革の実践が重要だと思った。
- ・政策サポーターは手上げで集まるのが理想だと感じた。その手当ても時代に合わせた必要と感じた。
- ・委員会代表質問で検討すると答弁した場合は6ヶ月おきに、当局から検討の結果を文書で報告してもらうことが普通になっていることは当市でも参考にして欲しい。

### ○菊池 勝委員

住民に信頼される新しい地方議会づくりをとして、「追認機関から脱し、議会の権限と役割、責任を果たすこと」「チーム議会」として政策力を向上させ、住民福祉の向上へ町長と善政競争を進めること」「議会への住民参加を広げ、住民の自治意識を高め、議会を「見える化」すること」を目指しておりました。政策サポーター制度について、議会活動への町民参加や協働ですすめる政策づくりから町長への政策提言を行っておりました。私が質問した、「サポーターと政策づくりの議論をどのように行っているのか」については、サポーターからは主に意見を伺うことを重視し、座長である常任委員長のまとめ方にかかっているそうであります。今回、可児市議会と飯綱

町議会を視察しましたが、どちらも市民の声、町民の声を政策提言へつなげ、政策や議案に反映させる一貫した取組を行っていました。北上市議会として、市民の声である質問や要望等をどのように聞き、どんなプロセスをもって提言や予算・決算に活かして行けるのか。または、市民へ、その回答を議会としてどのようにお返しできるのか。市民の声からスタートする議会としての政策サイクルを機能させることが出来れば、これまで以上に広聴委員会の取組が「市民に見える成果」として発揮されるものだと感じました。

#### ○小原 享子委員

政策サポーター制度は、開かれた議会とするため議会活動への町民参加を広げること、定数が減る中で、町民の知恵も借りて政策づくりを協働ですすめるという理由であった。

政策サポーターには、審議会委員等の基準の3,000円が費用弁償として支払われていた。

議会が決めたテーマについて7～8回の議論を積み上げ提言につなげて行くという取り組みであった。

政策サポーターと政策を作り上げていくという方法が当市議会として必要かは別として、常任委員会での政策提言に意見を頂く機会をつくることは有用と感じた。市民に議会からの政策提言に理解や興味、関心を持ってもらうチャンスであるのみならず、提言そのものに深みを増すこともできるのではと思った。

現在も、政策提言に市民団体との意見交

換を行いその声を提言に反映はしているが、政策サポーターという意識で意見を出して頂く機会を作ってもいいかと感じた。

また、政策サポーター・モニター経験者が議員になっているという事を通し、一緒に政策を考えていく事で、議会への興味関心、議員なり手不足の一助にもなるのではないかと思った。